

漢法苞徳塾資料	No. 553
区分	配穴
タイトル	地支子午流注表および華陀子午表について
著者	八木素萌
作成日	2000.09.05

◇地支子午流注表

これを見てすぐに判明することは、経絡治療でいう各経の補穴・瀉穴は、蔵府の旺気時間と穴の旺気時間に関する認識を完全に切り捨ててしまっているということであろう。「迎而奪之・随而濟之」と「虚則補其母・実則瀉其子」という考え方が、この表では統合されているのである。

『難経』79難では「迎随の補瀉」について、「迎而奪之者・瀉其子也・随而濟之者・補其母也」と記述して心病を例に兪穴を瀉するのが「迎而奪之者・瀉其子也」ということであり、井穴を補するのが「随而濟之者・補其母也」ということであると、明言して誤解の余地を残していない。また、76難では「当補之時・従衛取氣・当瀉之時・従榮置氣」、つまり陽の分から気を聚めるのが補であり、陰の分から気を取捨てるのが瀉であることも明言している。

地支子午流注（納子法）

	肺 〈金〉〔寅〕 手太陰	大腸 〈金〉〔卯〕 手陽明	胃 〈土〉〔辰〕 足陽明	脾 〈土〉〔巳〕 足太陰	心 〈火〉〔午〕 手少陰	小腸 〈火〉〔未〕 手太陽
補穴	太淵(卯)土穴	曲池(辰)土穴	解谿(巳)火穴	大都(午)火穴	少衝(未)木穴	後谿(申)木穴
瀉穴	尺沢(寅)水穴	二間(卯)水穴	厲兌(辰)金穴	商丘(巳)金穴	神門(午)土穴	小海(未)土穴
自穴	經渠 金穴	商陽 金穴	三里 土穴	太白 土穴	少府 火穴	陽谷 火穴
原穴	太淵 土穴	合谷 相火	衝陽 相火	太白 土穴	神門 土穴	腕骨 相火
	膀胱 〈水〉〔申〕 足太陽	腎 〈水〉〔酉〕 足少陰	心包 〈相火〉〔戌〕 手厥陰	三焦 〈相火〉〔亥〕 手少陽	胆 〈木〉〔子〕 足少陽	肝 〈木〉〔丑〕 足厥陰
補穴	至陰(酉)金穴	復溜(戌)金穴	中衝(亥)木穴	中渚(子)木穴	俠谿(丑)水穴	曲泉(寅)水穴
瀉穴	束骨(申)木穴	湧泉(酉)木穴	大陵(戌)土穴	天井(亥)土穴	陽輔(子)火穴	行間(丑)火穴
自穴	通谷 水穴	陰谷 水穴	勞宮 火穴	支溝 火穴	臨泣 木穴	大敦 木穴
原穴	京骨 相火	太谿 土穴	大陵 土穴	陽池 相火	丘墟 相火	太衝 土穴

明・高武『鍼灸聚英』

註：

〔 〕：蔵府・経の旺気する時間

〈 〉：蔵府・経脈の五行的性質

()：穴を用いるべき時間帯

()の時間帯に用穴することで、病経の補瀉が行われる。

時間に該当しない時には、自穴または原穴を用いて必要な手技を行って補瀉する。

陽経の原穴欄の、「相火」は「作用」を表している。

対経関係は補完の関係である。

	肺	大腸	胃	脾	心	小腸
子午の対経関係	∥	∥	∥	∥	∥	∥
	膀胱	腎	心包	三焦	胆	肝

例えば（子）の時間には中渚は用いにくい場合が多いわけであるが、対経関係は「脾」となっているので、これを用いることによって効果を発揮させることができる。

※参考

十二経絡子〈瀉〉母〈補〉穴一覧表

此処では陽経における補穴瀉穴の見立ては、井・榮・兪・経・合の主治症で行った。

陰経	子〈瀉〉穴	母〈補〉穴	陽経	子〈瀉〉穴	母〈補〉穴
手太陰肺経（金）	尺沢〔合水〕	太淵〔兪土〕	手陽明大腸経（金）	曲池〔合土〕	三間〔兪木〕
足太陰脾経（土）	商丘〔経金〕	大都〔榮火〕	足陽明胃経（土）	解谿〔経火〕	内庭〔榮水〕
手少陰心経（火）	神門〔兪土〕	少衝〔井木〕	手太陽小腸経（火）	後谿〔兪木〕	少沢〔井金〕
足少陰腎経（水）	湧泉〔井木〕	復溜〔経金〕	足太陽膀胱経（水）	至陰〔井金〕	崑崙〔経火〕
手厥陰心包経（相火）	大陵〔兪土〕	中衝〔井木〕	手少陽三焦経（相火）	中渚〔兪木〕	関衝〔井金〕
足厥陰肝経（木）	行间〔榮火〕	曲泉〔合水〕	足少陽胆経（木）	侠谿〔榮水〕	陽陵泉〔合土〕

註

- ①陽経の要穴にも五行が配当されているが、これは陰経と陽経の相互関係が剛柔関係にあって、相互に調整しあっていることを表現しているものである。故に「補瀉」論的に母子関係を言う時には「井・榮・兪・経・合」の主治症で把握すべきものである。
- ②陽経の要穴に配当されている五行を「補瀉」論的に解釈している見解に遭遇することがある。例えば、足陽明胃経〈土〉にとって母穴を「解谿〔経〕」の五行性〈火〉で考えると「補穴」と解釈することになる。しかし、主治症から考えると経穴なので「瀉穴」となる。こうして、大きな行き違いが生じているので、元の時代に確立されていた母子関係論に依拠した穴の補瀉配当に混乱が生じているので、「地支子午流注表」は根底的に検討されなければならない。
- ③明の高武の『鍼灸聚英』では明らかに陽経の五行配当に基づいて足陽明胃経〈土〉の母穴は「解谿〈火〉」と記述している。我が国ではこの立場が承継されたものと思われる。
- ④今一つの重要問題は、相火経の五行配当問題である壬癸に当てている見地と、時間流注から心包は戌に、三焦は亥に当てられている。五行では壬癸は水が擬せられており、戌亥は十干の甲乙に、また戌は水に、亥は木に配されている。

◇華陀子午表（扁鵲神応針灸玉龍経 — 時日配合穴法図）

昭和 61 年秋～64 年春までの間、この表に基づいて治療院を訪れた全ての患者の治療を、治療機の傍らに暦をおいて日柄と時間の干支を見ながら診療した。全ての人に例外なく、この表に記述されているツボには、その日柄のその時刻には反応（軽重の差はあったが主として圧痛反応）が現れていた。そして記述されているツボに鍼をすると、かなりの割合で全ての愁訴が消失した。そうでない場合でも愁訴はかなり軽減していた。少なくともこの刺法は、本治法的な意味を臨床的に示してくれた。

時日配合穴法

日 時	甲 きのえ	乙 きのと	丙 ひのえ	丁 ひのと	戊 つちのえ	己 つちのと	庚 かのえ	辛 かのと	壬 みずのえ	癸 みずのと	壬子 みずのえ	癸丑 みずのと
子	陽池	丘墟	腕骨	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	衝陽	合谷	京骨	京骨
23~01	内関	公孫	列缺	水泉	中都	通里	公孫	列缺	水泉	中都	通里	通里
丑	腕骨	中都	中都	公孫	内関	水泉	列缺	通里	中都	列缺	列缺	水泉
01~03	列缺	合谷	合谷	丘墟	陽池	衝陽	腕骨	京骨	合谷	腕骨	腕骨	衝陽
寅	丘墟	腕骨	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	衝陽	合谷	陽池	丘墟	丘墟
03~05	公孫	列缺	水泉	中都	通里	公孫	列缺	水泉	中都	内関	公孫	公孫
卯	衝陽	通里	内関	列缺	公孫	中都	水泉	公孫	通里	内関	内関	中都
05~07	水泉	京骨	陽池	腕骨	丘墟	合谷	衝陽	丘墟	京骨	陽池	陽池	合谷
辰	腕骨	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	衝陽	陽池	陽池	京骨	腕骨	腕骨
07~09	列缺	水泉	中都	通里	公孫	列缺	水泉	内関	内関	通里	列缺	列缺
巳	陽池	公孫	通里	水泉	列缺	通里	中都	内関	公孫	水泉	水泉	通里
09~11	内関	丘墟	京骨	衝陽	腕骨	京骨	合谷	陽池	丘墟	衝陽	衝陽	京骨
午	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	陽池	陽池	合谷	京骨	丘墟	衝陽	衝陽
11~13	水泉	中都	通里	公孫	列缺	内関	内関	中都	通里	公孫	水泉	水泉
未	合谷	列缺	公孫	中都	水泉	内関	通里	列缺	列缺	中都	中都	公孫
13~15	中都	腕骨	丘墟	合谷	衝陽	陽池	京骨	腕骨	腕骨	合谷	合谷	丘墟
申	合谷	京骨	丘墟	陽池	陽池	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	合谷	合谷
15~17	中都	通里	公孫	内関	内関	水泉	中都	通里	公孫	列缺	中都	中都
酉	京骨	水泉	列缺	内関	中都	公孫	公孫	水泉	内関	通里	通里	列缺
17~19	通里	衝陽	腕骨	陽池	合谷	丘墟	丘墟	衝陽	陽池	京骨	京骨	腕骨
戌	京骨	陽池	陽池	腕骨	衝陽	合谷	京骨	丘墟	腕骨	衝陽	陽池	陽池
19~21	通里	内関	内関	列缺	水泉	中都	通里	公孫	列缺	水泉	内関	内関
亥	丘墟	内関	水泉	通里	通里	列缺	内関	中都	水泉	公孫	公孫	内関
21~23	公孫	陽池	衝陽	京骨	京骨	腕骨	陽池	合谷	衝陽	丘墟	丘墟	陽池

註: 壬子と癸丑は六季の変わり目に位置する。すなわち、以下の通り。

中都(足厥陰肝経・郄穴)	列缺(手太陰肺経・絡穴)
合谷(手陽明大腸経・原穴)	腕骨(手太陽小腸経・原穴)
公孫(足太陰脾経・絡穴)	内関(手厥陰心包経・絡穴)
丘墟(足少陽胆経・原穴)	陽池(手少陽三焦経・原穴)
通里(手少陰心経・絡穴)	水泉(足少陰腎経・郄穴)
京骨(足太陽膀胱経・原穴)	衝陽(足陽明胃経・原穴)

	壬子	癸丑
厥陰風木	1/23	1/24
少陰君火	3/24	3/25
少陽相火	5/23	5/24
太陰湿土	7/22	7/23
陽明燥金	9/20	9/21
太陽寒水	11/19	11/20

元・王国瑞撰 『四庫全書・鍼灸古書(1)』 扁鵲神応針灸玉龍経